

◇ 地域が育む「かごしまの教育」県民週間◇

県民週間では、期間中に93人（園児を含む）の来校をいただきました。以下に様々な取組の一部を紹介します。

○ 志布志市音楽発表会(3,4年生)



3年ぶりに音楽発表会が開催されました。本校からは、3,4年生が出場し、合唱「とどけようこのゆめを」と打楽器アンサンブル「世界

中の子どもたちが」を発表しました。この日のために、授業や朝・昼休みの時間を利用して精一杯練習に取り組んできました。緊張の中、大きな舞台上で堂々と発表した子どもたちは、会場から盛大な拍手をもらい達成感を味わうとともにとても誇らしげな笑顔を見せていました。

○ フォトライブ「アラスカ・オーロラ夢紀行」

講師 松本紀生(アラスカ自然写真家)

尾野見校区公民館の後援をいただき、フォトライブ「アラスカ・オーロラ夢紀行」を実施しました。松本氏の軽快で興味深いお話や素敵な音楽の調べとともに雄大なアラスカの自然



や野生動物の迫力ある映像を楽しみました。1～6年生の子どもたちも、身を乗り出し歓声をあげながら素晴らしい映像やお話に夢中になりました。フォトライブの最後には、イギリスの牧師ジョン・ニュートン作詞によるアメイジング・グレイスの曲をバックにオーロラの写真が次々と映し出されました。自然の偉大さと美しさに圧倒され、感動のあまり涙が流れました。当日参加された方の感想に「とても感動しました。自然の力を知り（再確認でき）ました。もっともっと多くの人にみてもらいたい。私も今、辛い時にあり勇気ももらいました。ありがとうございました。再度講演をしてください。」とあり、多くの方と感動を共有できたことがとても嬉しいでした。また、翌日の早朝、校長室前に子どもたちの人だかりができていました。そっと近づくと、校長室前に掲示してある松本氏の写真集を開きながら「この写真感動した」「お父さんやお母さんともいっぱいフォトライブの話をしたんだ」「大人になったら、絶対にアラスカに行きたい」と瞳をキラキラさせながら会話ははずんでいました。これからも、子どもたちの笑顔と未来のために、多様な学びの機会を設定し、豊かな人間性を養う教育に努めていきたいと改めて深く胸に刻むことでした。

○ 地域の方による講話

講師 小瀬戸太一(ピーマン農家)



本校の保護者の一人でもある小瀬戸氏にピーマン農家を営むまでのご自身の経験を通して、興味や関心を高く持つことやどんなことでも挑戦してみることの大切さについてお話をいただきました。

外国語が好きだったことをきっかけに、通訳になることを志していた学生時代。大学を卒業して、海外に住み、その経験を生かして旅行会社に勤めていたこと。鹿児島に帰り、焼酎を全国に広めようと酒店で働き、生産者の方と関わる中で、次第に物づくりに興味を持ったこと。そして、様々な経験や工夫を重ねて今があること。どのエピソードからも志をもち、何事も前向きに捉え道を切り開いてきたエネルギーをひしひしと感じ、元気をもらいました。



○ おのみつ子フェスティバル(1,2年生) 「秋祭り」生活科学習発表



生活科の学習で学んだ内容を「お店屋さん」として披露しました。

会の進行は2年生が担当し、全員でお神輿を担いだり、ソーラン節を踊ったりして秋祭りらしい雰囲気づくりを工夫しました。

また、松ぼっくりやどんぐり、木の葉など「秋探し」の学習で集めた素材を使って、様々な景品やゲームを準備しました。当日は、さゆり保育園の園児の皆さんを招待し、「しゃてき」や「魚釣り」などアイデアを凝らしたゲームと一緒に楽しみました。「いらしゃいいらっしゃい」と元気よく呼び込みをする声や園児に優しく説明したり教えたりする姿をみて成長を感じるとともに、みんなで協力して成功させようという1・2年生のパワーを感じた嬉しい一日でした。

